

日本創造学会 Japan Creativity Society JCS NEWS LETTER

—第47回研究大会を終えて—

第47回研究大会実行委員長 三浦元喜

2025年11月1日～2日に千葉工業大学津田沼キャンパスで開催された第47回研究大会は、天候にも恵まれ、無事に終了いたしました。参加者数は会場78名・オンライン6名の計84名、発表数は会場36件、オンライン10件の計46件となり、多くのご参加をいただき大盛況となりました。

初日は招待講演として名古屋学院大学現代社会学部の三矢勝司先生に「創造性を育むまちづくり」という題で講演いただきました。市民参加や地域の方の協力、学生を巻き込んで歴史ある建物とそのなかでの活動を守った話など、興味深く示唆に富む内容でした。また岡崎市の図書館（りぶら）の事例も歴史とその価値をどう新しい公共施設に取り入れていくかという話も、関係者間の調整の大変さはあるものの、地元愛や情熱が伝わって、たいへん感銘を受けました。招待講演はZoomで無料配信し、録画もさせていただいたので、ご要望があれば参加者向けSlackにて見逃し配信したいと考えております。

今回の研究大会の発表形式は前回の久留米方式を踏襲し、ワンフロアでのインタラクティブ方式とさせていただきますが、今年はセッションの最初に会場全体への1分程度の概要説明（ティザー発表タイム）を取り入れました。これにより、会場の一体感を高めるとともに、参加者がどの発表から聞かかを検討しやすくなったものと思っています。概要説明が盛り上がりすぎてなかなか終わらない場面もありましたが、最終的には予定通りのスケジュールで進めることができました。今年もインタラクティブ発表ではポスター掲示のほかにテーブルと電源を用意しました。実物展示やパソコンデモによって有意義な議論にご活用いただけたのではないかと思います。オンライン発表ではSlackを使用し、参加者のかたが発表動画をオンデマンドで参照したり、いつでも質問したりできる環境を提供しました。今後も対面の良さとオンデマンドの良さをハイブリッドで両方活かしていくとよいのではと考えています。投票も昨年同様、オンライン（Googleフォーム）で実施していただきました。（次ページに続く）



五郎丸副実行委員長



招待講演の三矢勝司先生



三浦実行委員長と三矢先生



発表風景

初日の夜には、大学の特徴的な建物であるツインタワーの最上階で、夜景を臨みながらの親睦会、総会報告、学会賞表彰式、永井先生のフェロー就任式を行いました。会場の都合によりスライド投影が行えませんでしたので、永井先生のフェロー講演の内容はぜひ別の機会に改めてお話を伺えればと考えております。また開催案内では「軽食付き」と表記させていただきましたが、実際の食事やお酒類（とくに温度管理を徹底した千葉県産の日本酒）はかなり充実した内容をご用意できたと自負しております。

二日目のポスター発表では、今年の大阪関西万博開催に合わせて企画された万博参加学生支援プログラムの一環として、万博参加支援企画発表が対面2件、オンライン5件ありました。とくに産能大から参加された学部留学生のマールさんとトヤさんには地元モンゴルの民族衣装・アクセサリを身に着けて、さながら万博コモンズ館の展示を連想させるような雰囲気、たいへん上手に発表していただきました。まさに万博のテーマや理念を体現されていると感じました。



フェロー就任の永井会長

親睦会場

ポスター発表の留学生

最後になりましたが、本研究大会の開催にあたっては、事務局の比嘉さんをはじめ、プログラム担当実行委員の藤原先生、古川先生、杉原先生、そして副実行委員長の五郎丸先生に、事前の打ち合わせから前日準備～当日の対応までたいへんご尽力いただきました。ここに深く感謝申し上げます。また来年の研究大会で皆様とお会いできることを楽しみにしております。



第47回研究大会に参加された皆さん

【第47回研究大会発表賞】 Congratulations!

【インタラクティブ発表】

研究大会発表賞：古川洋章氏（北九州市立大学）

発表タイトル：評価者の癖を模倣した推論型LLMは人間のアイデア評価にどこまで近づけたか？

【ポスター発表】

ポスター発表賞：平沼智康氏（北陸先端科学技術大学院大学）

発表タイトル：創造性の促進・阻害及びレジリエンスのメカニズムの探索的研究 —非クリエイティブ職のビジネスパーソンを対象として—

【動画発表】

ポスター動画発表賞：加藤美亜氏（九州大学）

発表タイトル：中心光の輝度コントラスト変化が認知状態の揺らぎ及びはっとするエクスペリエンスに与える影響

【万博参加支援企画ポスター発表】※学生万博参加支援企画は故立石信雄さんの寄付を財源として企画されました。

ポスター発表 立石賞：マンライオルシフ オロントヤ/サロールエルデネ アマルジャルガル（産業能率大学）

世界を学びお互いを知る —大阪万博が生む地域と世界の創造性—

学会賞表彰式



発表賞 古川洋章氏 発表学生賞 熊谷彩乃氏 ポスター発表賞 石井力重氏 著作賞 啓蒙部門 仁藤安久氏 著作賞 学術部門 松下大輔氏 豊田理事長

－ 2025年度の学会賞表彰 －

【第46回研究大会発表賞(2024年度研究大会)】

研究大会発表賞：古川洋章氏（北九州市立大学）

発表タイトル：異なるペルソナを持つマルチLLMを用いた合議制アイデア評価システムの提案

研究大会発表学生賞：熊谷彩乃氏（法政大学 専門職大学院）

発表タイトル：別領域との組合せを促す新たなアイデア発想モデルの構築

ポスター発表賞：石井力重氏（アイデアプラント）

発表タイトル：Imagine Card 変な動きで想像力を刺激する！20の指示カード

【論文誌Vol.28 論文賞】

論文賞：安松健氏 他（㈱エボルブ/大阪教育大学）

トップアスリートの身体知のW型問題解決モデルによる普及展開
サイバーフィジカルフィールドワークの実践事例として

【著作賞】

学術部門：松下大輔氏 他（大阪公立大学）

デザインは間違え デザイン方法論の実践知

啓蒙部門：仁藤安久氏 他（㈱Que）

言葉でアイデアをつくる。問題解決スキルがアップする思考と技術

2026 Creativity Conference in Seoul へのお誘い

会員 樋口健夫

2026年6月11日から14日にかけて、韓国・ソウルの Seoul National University において 2026 Creativity Conference in Seoul が開催されます。本会議は、創造性研究の最前線に触れる貴重な機会であり、創造的思考の理論・実践に関心を寄せる研究者、ならびに自身の創造性の涵養を志す方々にとって、大変有益な情報を提供する場となります。

日本からもアクセスしやすいソウルにおいて、世界各国の創造性研究者と交流できる絶好の機会です。創造性研究を通じて長年親交を重ねてまいりました Mark A. Runco 博士（Keynote Speaker）よりご案内を賜りましたことから、日本創造学会会員の皆様にもぜひご参加いただきたく、ここにお知らせいたします。

カンファレンスの詳細につきましては以下のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.worldcreativityconference.org>

最新情報を確実に受け取るためには、ウェブサイトからの参加登録ならびに公式ソーシャルメディアのフォローを推奨いたします。

論文および提案の優先締切：2026年2月1日

一論文編集委員会よりー



日本創造学会論文誌 第29巻（2026）前期が発行され、6件の論文がJ-STAGEで公開されました！https://www.jstage.jst.go.jp/browse/japancreativity/29/0/_contents/-char/ja

査読者の方には多大なるご協力を賜りましたこと、ここに感謝申し上げます。

これまでは年1回の発行でしたが、記事の速報性を高めるため、2026年発行の第29巻から、前期と後期の年2回（12月と6月）の公開としております。

また2025年1月より、論文投稿・査読管理Webシステムを導入しており、著者の方にはシステムを利用した電子投稿をお願いしております。

ReviewHub (<https://rhub.japancreativity.jp/>)



こちらのシステムにより、これからも迅速な査読と円滑な編集発行を目指してまいります。ちなみに第29巻（前期）掲載の6件の論文に関しては、投稿受付から採録までの平均日数は106日（標準偏差19日、最短80日）でした。引き続き積極的なご投稿と、査読へのご協力をよろしくお願いいたします。

29巻（2026）前期掲載論文の一覧

(29-01) 別領域との組合せを促すアイデア発想手法「AYモデル」の実践検証

熊谷 彩乃（法政大学）、大塚 有希子（法政大学）

(29-02) 日本人学習者のための文化適応型創造性尺度の開発 — 自由記述タスクと探索的因子分析による予備的検討 —

ヒーリ サンドラ（京都工芸繊維大学）、井上 拓也（立命館大学）

(29-03) QOL向上を目指す医療補助器具デザインの実践研究 — 共創型開発における創造的インタラクションの分析 —

谷口 俊平（北陸先端科学技術大学院大学）、西野 涼子（産業技術総合研究所）、永井 由佳里（北陸先端科学技術大学院大学）

(29-04) イノベーション・チャンピオンと積極的に共創する人材の動機と資質 - 電子コンパスデバイスR&Dチームの事例から -

安田 剛規（北陸先端科学技術大学院大学）、内平 直志（北陸先端科学技術大学院大学）、西村 拓一（北陸先端科学技術大学院大学）

(29-05) プロトタイプが呼び覚ます記憶：プライミング法を用いた共創促進手法の提案と検証
三富 敬太（慶應義塾大学大学院/山形大学）、白坂 成功（慶應義塾大学大学院）

(29-06) エビデンスの出自が柔軟なアイディア生成に与える影響 神経科学的エビデンスと社会的科学的エビデンスの比較

尾崎 幸平（ZENKIGEN）、橋本 一生（ZENKIGEN/東京理科大学）、岩本 慧悟（ZENKIGEN/神戸大学）

▲▼▲第91回クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

2025年12月14日（日）有楽町ビジョンセンターにて第91回クリエイティブサロンがハイブリッド開催されました。講演はオンデマンドで視聴が可能です。

講演タイトル：働く人の創造性を支援するには ー異業種10社コンソーシアムの実践知と提言ー



講師：田中美絵氏(リコー経済社会研究所 主席研究員)
河内康高氏(リコー経済社会研究所 主任研究員)



講演：-働く人の創造性を支援するには-
は下記のURLからオンデマンド視聴できます。

<https://youtu.be/62GdmpIKqbU>

会員の書籍紹介

考えるスイッチ 頭がいい人の思考のコツ

著者：島青志（しませいじ）

総合法令出版272頁 定価 1,870円（税込）



考え方を变えれば、世界が変わる！

同じ悩みを繰り返し、選択に迷うのは「考え方の型」が原因です。
本書はあなたの思考を再起動する一冊。

- アート思考で正解のない問いに挑み、感性で世界を捉え直す。
 - デザイン思考で問いを“かたち”にし、共感から行動へつなげる。
 - システム思考で全体の“つながり”を読み解き、持続可能な視点を得る。
- 三つの思考法を往復することで、あなたの「考える力」は深く、広く、しなやかに進化します。

ビジネス、教育、地域づくり、人生の選択まで――すべては考え方の型で決まる。思考が変われば、選択が変わる。世界の見え方が変わる。

今こそ、あなたの「考えるスイッチ」を押してみませんか。

デザインは間違う デザイン方法論の実践知

著者：松下大輔（まつしただいすけ）

京都大学学術出版会254頁 定価 2,200円（税込）



誰もがあっと驚く斬新な建築物のデザインは、実は「間違い」と紙一重？発明や革新につながるひらめきを万人の物とするために、先人たちはデザイン方法の理論化を目指してきた。要となるのは、創造と間違いが背中合わせの仮説形成推論。現代の複雑な課題やイノベーションの創出には、解法も答もない厄介な問題と対峙してきたデザイン方法論が有効だ。不確実な未来にデザインのプロ志望者が備えておくべき、知情意を携えつつ「間違う」力を探求する。

2025年度日本創造学会著作賞学術部門受賞



北欧スウェーデンの創造性を育てる ウェルビーイングな暮らし(後編)



西浦和樹

日本創造学会理事
ストックホルム商科大学・客員教授
宮城学院女子大学・教授

ストックホルムで仕事を始めて痛感したのは、「休息と回復」を前提に働き方が設計されていることです。子育て期でも在宅勤務が当たり前を選べ、平日は16時過ぎには多くが退社、週末は自宅で必要最低限の業務をこなす——こうした“時間の余白”が、慢性的な疲労や創造性の枯渇を避ける社会的仕組みとして機能しています。

そして、2025年9月中旬、政府機関から招待を受け、ブータンを訪問する機会を得ました。ブータンが掲げるGNH（国民総幸福）は、物質的豊かさのみならず、精神性・家族・共同体・環境責任を含めた“全体としての繁栄”を政策軸に据える理念です。GNHの理念を実現する研究機さらに、首都ティンブーから離れたインド国境に近いゲレフーで構想が進む「Gelephu Mindfulness City」は、国王陛下の“Diamond Strategy”のもと、精神文化と経済発展を統合する試みとして、ウェルネス、教育、農業技術、グリーンエネルギー、AI、観光といった重点領域を束ね、都市そのものをウェルビーイングの基盤に変換しようとしています。こうした国際的潮流には、日本の足跡も確かに刻まれており、日本の研究者や実務家が幸福度調査、都市構想、教育・公衆衛生の連携に参画し、知見と人材の往還を支えてきました（私自身も日本のウェルビーイング・モデリングを携えHappy Forumに参加）

CBS（Center for Bhutan & GNH Studies, 1998設立）は、全国規模の調査で、幸福の主要因（所得・健康・教育・精神性・家族・環境責任）と課題（失業、孤立など）を示し、GHQ-12に基づくメンタルヘルス動向まで可視化してきました。

これらを一つの文脈に束ねると、スウェーデンの「時間に余白をつくる働き方」と、ブータンの「価値と制度を再設計する都市・政策」が、異なる角度から同じ山を登っていることが見えてきます。すなわち、創造性を育むのは“個々の努力”ではなく、“余力を生む設計”です。日本でも、在宅勤務や短時間集中の運用といった働き方の改革に、ウェルビーイング的な評価軸（精神性・つながり・環境責任）と都市・教育の再設計を接続すれば、ワークライフバランスは“個人の工夫”から“社会の標準”へと跳躍できるはずです。ここでの実践は、私たちに「時間・制度・場」を編み直し、ウェルビーイングを“測り、育て、分かち合う”ための具体的な作法を教えてください。



新入会員紹介

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
安田 剛規	学生会員	北陸先端科学技術大学院大学	千葉県	応用物性・結晶工学・経営学
上月 翔太	正会員	愛媛大学教育・学生支援機構	愛媛県	文芸学・高等教育論・未来思考

総会報告

第47回研究大会の2025年11月1日、同年9月に行われた書面による総会の報告が豊田理事長より行われました。総会資料内容は賛成多数で承認・可決しました。

2024年度決算報告

収入

科目	予算額	実績額	備考
前年度繰越金	6,019,666	6,344,739	
会費収入	1,727,000	1,989,000	正会員支払者174名 1,751,000 学生会員支払者38名 177,000 賛助会員 1団体 30,000 入会金21名 31,000 ※新入会者会費は入会時期により変動
論文掲載料 雑収入	210,000	130,000	掲載料 正会員90,000 (3万×3名) 学生会員40,000 (2万×2名)
合計	7,956,666	8,463,739	

支出

科目	予算額	実績額	備考/予算と実績の差額
大会費	500,000	180,943	
会議費	90,000	80,454	9,546
研究会補助費	900,000	179,014	720,986
交通費	200,000	66,960	133,040
発送費	80,000	24,203	55,797
学会誌	150,000	60,400	89,600
ニューズレター・メディア	250,000	249,800	200
事務局費	384,000	384,000	0
会員情報管理費	250,000	249,600	400
HP管理費	130,000	126,620	3,380
事務所設備費	120,000	120,000	0
学会賞準備費	40,000	13,464	26,536
電話使用料	40,000	31,084	8,916
オンライン環境整備費	500,000	501,505	-1,505
予備費	2,672,719	247,571	2,425,148
支出合計	6,306,719	2,515,618	
	収入額	支出額	繰越額
収支	8,463,739	2,515,618	5,948,121

2026年度予算

収 入		支 出	
2025年度繰越分（監査未終了概算）	5,689,121	大会費	500,000
		会議費	90,000
会費収入（会員数からの概算）		研究会補助費 （クリサロ/フィールドワーク）	300,000
内訳		交通費	200,000
正会員201人×10000円×80％	1,608,000	発送費	80,000
学生会員45人×5000円×60％	135,000	学会誌	200,000
		NL・メディア作成費	250,000
		事務局費	384,000
新入会者入会金約20名分 （2000×15、1000×5）	35,000	名簿・データ類管理費 （規約、名簿、会費会計簿、ITアドレス等管理）	250,000
		ホームページ管理費	150,000
論文掲載料	150,000	事務所設備費 （光熱費、OA機器保守費、事務所使用費 等）	120,000
		学会賞準備費	50,000
		電話使用料	40,000
		オンライン環境整備費	150,000
		予備費	4,853,121
	¥7,617,121		¥7,617,121



事務局メッセージ

今年の流行語大賞は「働いて働いて働いて働いて…」。対し、西浦理事からの北欧レポートでは、「休息と回復」を前提に働き方が設計され、“時間の余白”が慢性的疲労や創造性の枯渇を防ぐ社会的仕組みが報告されました。2023年のOECD統計では加盟38か国中の時間当たりの労働生産性は日本は29位、北欧諸国は上位に位置しています。こうした差異は経済指標にとどまらず、社会設計の思想を映し出しているように思われます。
(事務局：比嘉)



日本創造学会 ニュースレター

2025年12月発行 (4No.)

日本創造学会事務局

発行人：豊田貞光

編集担当：比嘉由佳里

〒272-0031千葉県市川市平田

1-10-2

Tel 080-3465-6152

e-mail：jcs-info@japancreativity.jp